

# ATEM Newsletter



発行 映画英語教育学会  
住所 〒169-0075  
東京都新宿区高田馬場  
4-3-12アルク高田馬場4F  
TEL 03-3365-0182  
FAX 03-3360-6364  
E-mail [office@atem.org](mailto:office@atem.org)  
郵便振替 00820-3-1477

支部・委員会活動報告特集

April, 2014

映画英語教育学会 / The Association for Teaching English Through Movies

## Marching into the Next Phase with the Power of our Acronym

**Makoto Kurata**

Kyoto University of Foreign Studies

倉田 誠 (京都外国語大学)

第5代ATEM会長

The fifth president of ATEM



Ladies and Gentlemen,

Since its foundation in March 1995, ATEM has been an active association with innovative ideas for transforming movies, one of the most attractive entertainment media, into effective academic and pedagogical tools. However, as I mentioned as part of my humble inaugurating greetings on the front page of our Newsletter No. 25, we might have to bring about a few additional changes in order to evolve into a commendable educational organization. Please allow me to make use of our acronym, ATEM, to put across to you, my ATEM friends, a few key concepts with which we might march ahead into the next phase of our growth as an academic organization.

**A Authenticity:** Let us be more aware and proud that movies are not simply a hodgepodge of realistic elements, but a choice collection of carefully calculated audio-visual materials. Only selected linguistic and cultural features are interwoven in films and their scripts by gifted writers. In addition, good movies are so skillfully supervised and so dexterously delivered to us by directors, actors, and actresses that all of us will continue to be overwhelmed by their synergized dynamism and professional **authenticity**.

**T Thought-provoking:** We might try to expand the caliber of ATEM and embark on a new course to develop a few workshops where we could map out our own movie/media-based ESP (English for

Specific Purposes) designs. For example, we might put together a medical English workshop for those who wish to create their own incisive ESP materials. This sort of academic challenge would definitely amount to **thought-provoking** and fruitful activities at regional, national, and international levels.

**E Exchange** (→Enrich): We can **exchange** a wide variety of information and expertise with the wonderful Korean scholars of STEM (The Society for Teaching English through Media). ATEM and STEM have long been close academic partners, and have always stimulated and enriched each other through our mutual research findings and friendship.

**M Mingle** (→Make the Most of Movies and other Media→Morale): You and I should carry on and demonstrate what we are capable of doing to members of other academic organizations. I know some of you have recently succeeded in reading your papers at other prestigious conferences, such as JACET, LET, SEGU, ELSJ, CAJ, and many others. I'd like to encourage more of you to **mingle** with others and to lead them to make the most of movies and other media for their own academic and pedagogical purposes. Let us simultaneously usher people of different organizations into our association, which will in turn result in raising our own scholarly morale!

Last but by no means least, I'm pleased to announce that we have chosen Fukuoka as this year's conference venue and that we'll be hosting our 20th Commemorative National Convention at Fukuoka Jo Gakuin University on August 20, 2014. Please notice that we have broken away from our conservative stance slightly and put forward the English theme of "A Journey to Different Cultures through Media" this year. Let us go through a number of vicarious and down-to-earth experiences together! Let us also hit Hakata and have a happy time at the height of summer!

# ATEM 20th Commemorative National Convention

## 映画英語教育学会(ATEM)第20回記念全国大会

Date: August 20 (Wed.), 2014 (開催日:平成26年8月20日(水))

Place: Fukuoka Jo Gakuin University (会場:福岡女学院大学)

Theme: A Journey to Different Cultures through Media

(大会テーマ:映画で異文化を旅する)

本年8月20日、福岡女学院大学にて、ATEM第20回記念全国大会が開催されます。そしてこの記念すべき全国大会の特別講演者としてお招きしているのが、長崎総合科学大学教授のブライアン・バークガフニ先生です。カナダ生まれの先生は、「長崎学」の権威であられると同時に、禅僧として京都の妙心寺で9年間修行をされた、異文化理解のエキスパートでもいらっしゃいます。まさに、大会テーマ「映画で異文化を旅する」の基調講演者として相応しい方です。この貴重な特別講演を、多彩なシンポジウムや研究発表と共にお楽しみ頂ければと思います。

大会後の懇親会は、文化庁登録有形文化財の「博多百年蔵」で催されます。こちらにもぜひご参加下さい。8月20日、「軍師官兵衛」ゆかりの地・福岡で、最高に有意義な一日を過ごしましょう。(大会運営委員会)

### ■プログラム

時間	項目
9:00	受付開始(4号館)
9:30-9:55	ワークショップ
10:00-10:10	開会式
10:15-10:45	STEM特別発表
10:50-11:17	発表1
11:20-11:47	発表2
11:50-12:17	発表3
12:20-13:15	休憩(昼食)
13:20-13:27	総会
13:30-13:57	発表4
14:00-14:27	発表5
14:30-15:50	シンポジウム
16:00-17:15	特別講演 ※右記参照
17:15-17:20	閉会式
18:00-20:00	懇親会(博多百年蔵)

※詳細は発表者決定後にウェブサイトへ掲載します。

### 【発表応募方法】

下記大会ページの募集要項に従い、会員専用ページ(本紙最終頁参照)よりお申込みください。

\*English presentations will be welcomed.

<http://www.atem.org/taikai/>

応募締切:2014年5月11日(日)

応募資格:ATEM会員であり、2014年度分の会費を納入していること。

### ■特別講演

## Stereotypes in Cinema and Cross-Cultural Communication

(映画に見られるステレオタイプと異文化コミュニケーション)

講師:Brian Burke-Gaffney 先生

異文化理解を阻む大きな要素として挙げられるのが、「自民族中心主義」と「(他文化に対する)ステレオタイプ化」です。映画は、これら2つの要素をある時は補強し、ある時は改善する力を持っています。この講演では、西部劇などの映画を例にとって、異文化理解を深めるための教育について考えます。

### 【講師プロフィール】

1950年カナダ、ウィニペグ市に生まれる。1972年、ヨーロッパ、インド等を経て来日。翌年、臨済宗入門得度、「来庵」の僧名を受け、1982年まで雲水(修行僧)として京都の妙心寺専門道場等において9年間禅の修行を行う。1988年、ニューヨーク国連本部で開催された、第3回軍縮特別



総会で長崎市長の演説を同時通訳。1992年NHK大河ドラマ「信長」にイエズス会巡察視バリエーノ神父役で出演。同年、長崎県民表彰を外国人として初めて受賞。現在、長崎総合科学大学人間環境学部教授、同大学図書館長、長崎大学非常勤講師、長崎市国際アドバイザー、長崎日英協会理事などを勤める。著書には『蝶々夫人を探して』(かもがわ出版、2000)、『庵』(グラフィック社、1995)、『時の流れを超えて:長崎国際墓地に眠る人々』(長崎文献社、1993)、『花と霜:グラバー一家の人々』(長崎文献社、1989)などがある。

## ■支部だより■

### [北海道支部]

◆1月12日(日)、小樽商科大学札幌サテライトキャンパスを会場に、40名近くの参加を得て、第3回北海道支部大会を開催。交流の輪が広がりました。

◆支部大会は、開会式に続き、松田愛子氏(翻訳家)によるワークショップ「字幕・吹替翻訳プチ体験～映像翻訳を英語教育に活用する視点を養う～」からスタート、コーヒー・ブレイクを挟み、小林敏彦先生(小樽商科大学)の出版物紹介『図解50の法則 口語英文法入門』へと進みました。後半は、Denis Quinn先生(北海道文教大学)のミニ講演“Making Films with an Accent — from script to screen”に始まり、倉田誠先生(京都外国語大学)と横山仁視先生(京都女子大学)による招待発表「談話辞 speaking of A の用法をめぐって」が続き、最後は、藤枝善之先生(京都外国語大学・短期大学)による特別ワークショップ「字幕から学ぼう!—『カサブランカ』で高瀬鎮夫と勝負する—」が行われました。

◆今回の支部大会は、初の試みとしてコーヒー・ブレイクの時間に授業実践を紹介する「ポスター発表」と、主に授業のハンドアウトを紹介する「マイシェア」が行われ、会場では授業を話題にした交流の輪が広がりました。「ポスター発表」を行ったのは、北間砂織(北海道医療大学)、白鳥亜矢子(北海道医療大学)、小林敏彦(小樽商科大学)、田口雅子(とわの森三愛高校)、三浦寛子・秋山敏晴(北海道工業大学)の各先生、足利俊彦(北海道医療大学)、塚越博史(北海道医療大学)、池田恭子(札幌市立あいの里東中学校)、渡辺まどか(天使大学)の各先生が「マイシェア」を行いました。この企画は参加



者から好評をいただき、「全国大会でも企画されてよいのでは」という声も聞かれました。  
(支部長：秋山 敏晴)

### [東日本支部]

◆11月24日(日)の第4回支部大会に合わせて、役員の異動がありました。授業開発委員として日影尚之先生(麗澤大学)が加わるなど、戦力になる方が増えつつあります。

◆11月の支部大会では、新しい映画教材開発シリーズ第5弾として『Sherlock-A Study in Pink』を用いたシンポジウムが冒頭で開かれ、その後、Chris McVay先生(麗澤大学)の講演“How to Improve Our Spoken English”が続きました。学習者の意欲を高めるために、いかに指導者側の意識を高めていくかを考えさせられる、テレビでもおなじみのMcVay先生によるパフォーマンスに一同圧倒されました。その後、同じ映画タイトルのリメイク版を比較し、似たセリフがニュアンス面でどう変化



したかを報告した例、なにげない相槌がどう機能しているか、そして命令文のように見えても機能面では別となる表現の研究と、語法面の発表が3点ありました。文学面の発表は1点で、映画『レ・ミゼラブル』に隠されたイメージの数々を知る大変興味深い内容でした。

◆2013年は、2月に映画リテラシーに関するパネル・ディスカッション、5月にリスニングをテーマとする研究と映画英語教材開発報告も行われました。最後になりましたが、8月に相模女子大学にて開催された第19回全国大会が、皆様の御協力をおもちゃして無事に終わりましたことを運営担当支部として、厚く御礼申し上げます。

(支部長：吉田 雅之)

### [中部支部]

◆2013年度は、一般会員の研究活動への参加を大きな課題とし、「研究活動の充実」をテーマとして活動をしてきました。

◆10月6日(日)、愛知産業大学の言語・情報共育センターにて2013年度研究大会を開催しました。美術史研究を専門とする杉山奈生子先生(愛知産業大学大学院)の特別講演「イメージの中のイメージ」、研究発表3件、

ワークショップ1件という内容でした。大会の広報活動が功を奏し、静岡、三重等、愛知県近隣の学会員の参加もあり、充実した研究大会として盛況のうちに幕を閉じました。



(支部研究大会特別講演)

◆1月25日(土)には、運営委員会で前

年度の事業計画の継続と新事業の立ち上げが承認されました。第2回研究大会の開催、支部紀要の発行、共同研究の実施を中心に進め、さらに活動の見直しや組織改編にも取り組みます。

◆今年度は、「研究と教育」をテーマとした活動を実施して参ります。小・中・高・



(支部研究大会ワークショップ)

大学に属する会員が、それぞれの分野において、映画を導入した教授法、分野間の連携、リメディアルなどを研究していく予定です。

(支部長：諸江 哲男)

## [西日本支部]

◆11月23日(土)に広島国際大学(広島キャンパス)で第11回支部大会を開催し、62名の参加者を以って盛會に終わりました。シンポジウムは『『ガン・ホー』(Gung Ho, 1986)徹底活用法』と題して、異文化理解の視点から遠藤崇誌氏(マツダ株式会社)が、英語学の視点から山本五郎先生(広島大学)が、企業の社員教育の視点から松永仁一氏(JMコンサルティング)が活用法を提案されました。招待発表では、秋山敏晴先生(北海道工業大学、北海道支部支部長)が「小学校英語における映画



(左から、遠藤氏、山本先生、松永氏)

活用性の可能性」と題して、特別講演では、谷本秀康先生(広島大学)が「同時通訳と字幕翻訳一意味論と語用論の観点から」と題して、ご発表頂きま

した。研究発表では山内圭先生(新見公立大学)が「映画『シャレード』を使用した一般市民対象の英語講座について」と題して、小川洋一郎氏(朝日出版社)は「映画と朝日出版社」と題してご発表頂きました。

◆1月12日(日)の第3回北海道支部大会では、西日本支部から、藤枝善之先生、倉田誠先生、横山が参加し、研究発表を通じて支部間の学術交流を図りました。

◆「第5回映画英語学ワークショップ」を6月に開催を予定しています。日時およびテーマは、決定され次第、HP上で公開します。

(支部広報委員長：横山 仁視)

## [九州支部]

◆新役員(任期：2014年～2015年)は以下の通りです。

支部長 高瀬 文広(福岡医療短期大学)

(兼務：大会運営委員)

副支部長 大木 正明(大分工業高等専門学校)

篠原 一英(福岡県立福島高等学校)

(兼務：本部 国際交流委員)

吉村 圭(鹿児島女子短期大学)

事務局長 山下 友子(九州大学)

高瀬は2005年以来、今回2度目の就任となります。2014年は全国大会が九州で開催されることもあり、副支部長も3人体制で大会をバックアップしていきます。

◆10月19日(土)に福岡大学にて第15回目となる、

2013年度の支部大会が開催されました。研究発表4本、および4名の発表者による

「映画を利用した英語学習の動



機付け」というテーマでのシンポジウムを行いました。

大会参加者は約50名でした。(写真は九州産業大学 Darcy De Lint 先生の発表の様子)

◆2014年度の支部大会については、日時はまだ調整中ですが、北九州市にある西南女学院大学にて開催することが決まりました。8月20日(水)には福岡女学院大学で全国大会が開催されますので、本年度も10月頃に行う予定です。詳細については今後、支部のHPでご確認ください。

(支部長：高瀬 文広)

## ■委員会だより■

### 【国際交流委員会】

#### 18th STEM International Conference について

今年度の姉妹学会 STEM(The Society for Teaching English through Media)第 18 回国際大会は、5 月 17 日(土)に蔚山教育研修院(Ulsan Educational Training Institute)にて開催されます。第 18 回の大会テーマは、“Development of Practical English Ability through Movies and Media”です。特に今回のハイライトは、小学校および中学・高校における映像メディアを活用した授業実践ワークショップで、日韓両国の講師による模擬授業が行われます。韓国では 1997 年より小学校英語教育が必修化されており、初等英語教育にご関心のある先生方には、絶好の情報交換の機会となることと存じます。STEM 国際大会では、例年 ATEM の会員による研究発表も行われております。これまでに ATEM の全国大会もしくは支部大会で発表された会員の方であれば、STEM 国際大会での研究発表に応募することができます。さらに、STEM 国際大会で発表された方は、*STEM Journal* (季刊)に応募する資格も与えられます。詳しくは、ATEM ウェブサイトのトップメニュー「STEM 大会発表&紀要投稿」をご覧ください。

<http://atem.org/docs/about/stem.html>



蔚山(ウルサン)は、釜山の北約 70km にある工業都市・農村複合都市で、現代自動車のお膝元です。また釜山と並ぶ漁港でもあり、海の幸が美味しい

ようです。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

(委員長：井村 誠)

#### [STEM 第 18 回国際大会発表者]

(研究発表) \*はメインホールでの ATEM 代表発表者

1. 吉牟田聡美 先生 (東日本支部)
2. 濱上桂菜 先生 (西日本支部)
3. 横山仁視 先生 (西日本支部) \*
4. 大木正明 先生 (九州支部)
5. ニカンドロフ・ニコライ 先生 (九州支部)

(ワークショップ)

1. 三浦寛子 先生 (北海道支部)
  2. 倉田誠 先生、クレイグ・スミス 先生 (西日本支部)
- STEM ウェブサイト <http://www.stemedia.co.kr>



### 【広報委員会】

#### 広報紙 ATEM Newsletter について

前 25 号紙版では、1 頁目掲載の会長挨拶のタイトルが、1 ワードのみ誤フォントで印字されておりましたこととお詫び申し上げます。

現委員会メンバーが企画から全行程を手掛けました本 26 号の紙版は細心の注意を払い作成し、紀要第 19 号とともにお手元に届きます。今号では前号の事務局連絡枠「ATEM Clapper Board」に続き、書評や出版告知等の会員活動報告掲載枠として、「ATEM Clips」を設けました。広報紙への掲載希望情報は、ぜひ支部担当広報委員(本紙編集後記に記載)を通じてお寄せください。(委員長：松田 愛子)

#### 公式ウェブサイトのリニューアルについて



現トップメニュー画面 (スマホ用)

セキュリティ強化と、より利用しやすいサイトの構築のため、現在、ATEM 公式ウェブサイトのリニューアル計画を進めております。徐々に調整していきますので、現在は仮サイトですが、各種リンクや、会員専用ページ(会員管理システム。本紙最終頁参照)は、通常どおりご利用いただけます。なお、現在のサイトは仮ながらスマートフォン表示にも対応させています。(ICT 理事：新田 晴彦)

## 【紀要編集委員会】

## ATEM ジャーナル第 19 号について

最初に、ATEM ジャーナル第 19 号にご投稿下さった皆様にお礼申し上げます。一昨年より投稿数が着々と増え続けていることを委員会メンバー一同、嬉しく思っています。ご協力有難うございました。

さて、第 19 号への投稿論文数は 15 編でした。研究論文が 14 編、研究ノートが 1 編です。教育実践報告の投稿はありませんでした。論文テーマはこれまでの英語教育学、ICT、英語学、語用論、異文化理解といった分野に文学が加わっています。

ISSN 1342-9914	
紀要	
映画英語教育研究	
第 19 号 (2014 年 3 月)	
目次	
【研究論文】	
The Benefits of the CICO Typology Framework for Learning, Teachers, Researchers, and Teachers' Wives	小林 聡彦 2
習熟度に応じた映像英語教材の開発—教科書の電子化—	角山 明彦 18
映画を教材とした「映画英語教育」のあり方—	佐藤 昌彦 32
プレゼンテーション、授業、授業評価の観点から	田中 圭介 46
仮説検証型—get out to have a look—	森田 誠 60
英語を教えるための「映画英語教育」のあり方—	森田 誠 74
映画を用いた英語の授業—効果的か—	平野 朝由 74
文化理解を促進する	
A Study on Language Development through Movie Characters On the Basis of Dynamic Heterogeneity	Joyang Seo 86
Typology Modern Family through KakaoTalk: On the Basis of the Characteristics of University Students Learning English	Mijin Im 100
映画を用いた英語の授業についての—授業法—	松本 知子 114
大学の英語教育—授業法と効果的授業のあり方—	森田 昌彦 128
映画を用いた英語の授業—効果的授業のあり方—	森田 昌彦 142
映画を用いた英語の授業—効果的授業のあり方—	森田 昌彦 142
【研究ノート】	
英語教育—授業法と効果的授業のあり方—	森田 昌彦 156
2014	
映画英語教育学会	
ISSN 1342-9914	

例年通り、それぞれの論文に対して複数の査読者により閲読が行われました。このプロセスを経て掲載となったのは研究論文 11 編 (STEM 推薦論文 2 編を含む)、研究ノート 1 編です。従いまして、第 19 号は総数 12 編の論文で発行されることになりました。関係者の皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。

もう 1 点ご報告致します。論説資料保存会についてです。論説資料保存会とは、過去に発行されている論文を年度別・分野別に集録するという目的で設立されています。昭和 39 年以降、「中国関係」「国語学」「英語学」「教育学」の論文を筆者の承認を得て集成しています。本学会もこの保存会にジャーナルを送付することによって掲載の機会を得ることを理事会で了承いただき、早速前号を送付させていただきました。この後、先方の目に留まった論文の筆者に掲載許諾の連絡があり、了承後に掲載という流れになります。ご承知おきください。

(委員長：塚越 博史)

## ● A T E M 論文リンク集 ●

CiNii で閲覧が可能な、ATEM 紀要『映画英語教育研究』掲載論文および研究報告は下記よりアクセスできます。ご活用ください。

<http://www.atem.org/docs/about/ronbun.htm>

## 【大会運営委員会】

## 第 20 回記念全国大会について

大会運営委員会は、運営委員長 (藤枝) と九州支部役員を中心とする大会実行委員会 (高瀬、中島、砂川、その他) によって構成され、本年 8 月 20 日、福岡女学院大学において開催される「ATEM 第 20 回記念全国大会」に向けて準備を進めています。今回の大会テーマは「映画で異文化を旅する」“A Journey to Different Cultures through Media” で、長崎総合科学大学のブライアン・バークガフニ (Brian Burke-Gaffney) 先生を特別講演の講師としてお招きします。バークガフニ先生には、“Stereotypes in Cinema and Cross-Cultural Communication (映画に見られるステレオタイプと異文化コミュニケーション)” というタイトルで、『駅馬車』(1939) や『ダンス・ウィズ・ウルブス』(1990) などを題材に異文化理解を阻む要素についてお話を頂きます。その他、近年語学教育界で注目されている翻訳の教育的価値を探るため、字幕翻訳をテーマにした支部横断的なシンポジウムも計画しています。

(委員長：藤枝 善之)

2014年8月20日(水)開催  
ATEM第20回記念全国大会  
開催会場



福岡女学院大学  
FUKUOKA JO GAKUIN UNIVERSITY

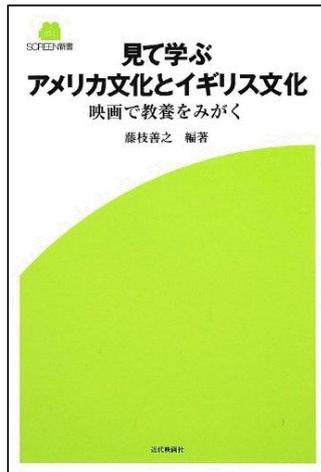
福岡市南区日佐 3 丁目 42-1  
tel: 092-575-2971 (大学総務課)  
<http://www2.fukujo.ac.jp/university>

○大会運営委員会○

藤枝 (運営委員長)、高瀬 (実行委員長)、中島 (会場責任者)、砂川、大木、篠原、吉村、山下 (実行委員)

[大会運営担当：九州支部]

## ■書評



### 『見て学ぶ アメリカ文化とイギリス文化 映画で教養をみがく』

藤枝善之 編著（近代映画社、2012）

書店に並んでいる書籍を眺めていると本書のタイトルが目飛び込んできた。そのタイトルに含まれる「文化」「映画」「教養」というマジックワードが私を惹きつけたのである。素敵な書物であることを期待する反面、その内容に失望させられるのではないかとも思いつつ頁を開いてみた。その瞬間、私の不安は吹き飛び、私は嬉しい驚きに包まれた。本書は、新書という手軽な形式には似つかわしくない程、充実したものだったのである。

本書では多様なジャンルの映画を通してアメリカとイギリスの文化、社会、歴史、思想などを学ぶことができる。そこで検討されているテーマは、感謝祭、ベトナム戦争、アーミッシュ、アメリカ先住民、同性愛嫌悪、階級制度、奴隷貿易、庭園制度、ジェンダー構造など多岐にわたる。これらは知っているようで知らないもの、知っておきたいと思わせるものばかりであろう。ブロックバスターから小品まで、映画好きならば一度は見たことがあるはずの作品が並んでいるが、映画を見たことがなくても心配はない。各項目は映画自体を未鑑賞でもその内容を理解できるように配慮されている。映画を置き去りにして議論を進めるといふ、この手の本にありがちな失敗もない。あくまでも選択された映画の文脈に沿ってテーマが扱われている。DVD 再生タイムの表記も便利である。読者はリモコンを操作して該当シーンを確認するだけで、視覚面や聴覚面からも内容

の理解を深められる。また、関心を持ったテーマをさらに追求したい読者のためには、著者のオススメの本が紹介されている。読者はこの書籍の枠組みを超えて、自らの教養をみがき続けることができるのである。

本書の主な購買層は、アメリカ文化やイギリス文化に関心のある映画ファンであろう。しかし、英語学習者や英語教員にこそ本書を活用して欲しい。特筆すべきは、本書を補完する内容を含む充実した教授用資料が、教員に対して提供されているということである。そこでは151頁に渡って、本書の第一章から第三章の全ての項目に関する演習問題とそれに対する解答例、そして「さらに」深く学ぶためのオススメ本が紹介されている。また「もっと知りたい英米文化」と題し、本書には含まれなかった映画を契機に女性観、食文化なども論じられている。

この教授用資料は「さらに」教養をみがく読み物としても面白い。しかし、授業や講義内でこの教授用資料を議論の手がかりとして活用すれば、学生により多くのことを考えさせ、真のコミュニケーションに必要な教養や立ち振る舞いを身につけさせることができるだろう。近年、英語教育の現場ではコミュニケーション力を重視する英語教育が中心となっているが、言語能力はコミュニケーション力の一部に過ぎない。情報発信者と受信者は互いの文化・社会・歴史的背景や、互いの個性を尊重した



上で意思疎通を図る必要がある。それを欠いてはコミュニケーションとは言えない。例えば、本書にも登場する民族的・性的マイノリティの人たちを巡る状況を理解しておけば、彼らとの交流の際によりスムーズで適切な会話を築くことができる。また、コミュニケーションにおいて重要なものはコンテンツである。本書を手には様々な問題を検討する機会を得ることで、表面的な発話ではなく、中身のある知的な対話が可能となる。本書はそのような「本物の」コミュニケーション力を習得するための絶好の指南書だといえる。

肩肘をはらずに読める本でありながら、読者を知的にも満足させる書籍は少ない。読者を本物の教養へと導いてくれる貴重な書籍が本書なのである。

安田 優（北陸大学）

## ■会員管理システムのご利用について■

公式ウェブサイトのトップメニュー「会員専用ページ」から「会員管理システム」へアクセスください↓

<http://www.atem.org/docs/about/member.html>



### ATEM 会員管理システム

会員ID

パスワード

対応ブラウザは、IE(インターネット・エクスプローラー)、firefoxとChromeです。  
その他のブラウザではログインできない可能性があります。

会員IDもしくはパスワードをお忘れの方は本部事務局までメールにてご連絡ください。

本部事務局

会員専用ページでは ・会員の情報更新 ・会費の納入状況の確認 ・紀要論文への投稿 ・全国大会への研究発表応募及び大会参加申し込み が可能です。 ※詳細は会員専用ページからダウンロードできる利用マニュアル(PDF)をご覧ください。



## ATEM Clapper Board

- 2014 年会費 (4/1～翌 3/31) 5000 円の納入をお願いします (納入期限：6/30)。同封もしくは郵便局備え付けの振込用紙 (青色) をご利用の上、下記口座へ納入ください。個別の納入状況については、上記ウェブサイト内にある「会員情報システム」で確認が可能です。2 年以上滞納された場合には、会員資格を失いますのでご注意ください。

ゆうちょ銀行：00820-3-1477

口座名義：映画英語教育学会事務局

※通信欄に「〇〇年度年会費」と明記ください。

- ATEM は言語系学会連合に加盟しました。下記の URL でご確認いただけます。

<http://www.nacos.com/gengoren/index.html>

- ATEM は論説資料保存会に加盟しており、紀要『映画英語教育研究』は学会外にも公開しています。公開内容は下記 URL からご覧いただけます。

<http://www.ronsetsu.co.jp/>

- 紀要『映画英語教育研究』第 20 記念号の締め切りは 9 月 30 日 (火) です。ぜひご投稿ください。

- ご同僚やご友人にもぜひ本紙をご一読いただくようお声かけください。

事務局 [office@atem.org](mailto:office@atem.org)

### 賛助会員一覧 (50 音順)

株式会社朝日出版社

株式会社金星堂

株式会社くろしお出版

株式会社松柏社\*

株式会社成美堂

株式会社マクミランランゲージハウス

コンパスパブリッシングジャパン株式会社\*

センゲージラーニング株式会社

ソースネクスト株式会社

チエル株式会社

東京書籍株式会社北海道支社

\*は新規会員

### ～編集後記～

・公式ウェブサイトにバックナンバーとして掲載される PDF 版は、本 26 号も前号同様フルカラーでご覧いただけます (紙版は 2 色刷りです)。

・次号は第 20 回記念全国大会特集で、10 月発行の予定です。

【広報委員会】 ※ ( ) 内は担当支部

委員長：松田 愛子 (北海道)

委員：秋好 礼子 (九州)、井土 康仁 (中部)、

佐藤 みか子 (東日本)、横山 仁視 (西日本)